

くすり一口メモ

内服薬を簡易懸濁法で投与する際の注意点について

簡易懸濁法とは、錠剤・カプセル剤を粉砕・開封せずに55℃程度のお湯に崩壊懸濁させて投与する方法である。病院内だけでなく、介護施設や在宅などでも広く普及している。胃瘻・経鼻胃管からの投与に加え、高齢者や様々な疾患により嚥下機能の低下した患者に対して、トロミをつけて口から内服してもらう方法としても有用である。

従来の粉砕法の問題点として、粉砕調剤する一連の作業に時間を要する、乳鉢や粉砕機への薬剤の付着により投与量が減る、粉砕した薬剤を調剤者が吸い込むことによる健康被害、粉砕した薬剤が投与されるまでの間に光や湿度の影響をうけ物性が変化する、かさを増すために賦形した乳糖が水に難溶性であることから、注入時に洗い流す操作を繰り返すため多量の水が必要となる等がある。簡易懸濁法ではこれらの問題が解決するとともに、投与直前まで錠剤、カプセルのままで保管できるため、薬品の確認が可能である。また、処方変更時に調剤済みの薬剤を破棄せず再利用が可能であることもメリットである。

簡易懸濁法を実施するには各医薬品の適否のデータが必要であり、55℃のお湯で懸濁できるか、懸濁することで製剤的特性が失われ体内動態が変化しないか等、予め添付文書やインタビューフォーム、製薬会社への問い合わせにより情報を収集する。

メリットの多い簡易懸濁法であるが、不適なものや投与時に注意が必要な薬剤もある(表)。

また、製剤を破壊して投与することから適応外の用法であるため、入手した情報を基に各施設で投与の可否を判断する必要がある。

	該 当 薬 剤	対 処 法
徐 放 性 製 剤	アンブロキシソール徐放カプセル ニフェジピン ^{CR} 錠 ベタニス [®] 錠 ワントラム [®] 錠	非徐放性製剤や同効薬への変更を検討
腸 溶 性 製 剤	バイアスピリン [®] 錠 ラベプラゾールNa塩錠	同効薬への変更を検討
崩 壊 し な い 薬 剤	アスパラ [®] カリウム錠 クエン酸第一鉄Na錠	細粒・顆粒剤や同効薬への変更を検討
	ベラパミル錠 ロゼレム [®] 錠	錠剤にひびを入れることで懸濁可能になる
	酸化マグネシウム細粒83% ランソプラゾールOD錠	水に懸濁するか、酸化マグネシウム錠へ変更 水に懸濁する

該当薬剤は参考として一部のみ記載しており、記載した薬剤が全てではない
同成分薬でも製造メーカーによって適否が異なる場合がある

参考資料：インタビューフォーム

内服薬経管投与ハンドブック第3版. じほう, 2015

(鹿児島市医師会病院薬剤部 川添 希)